

TSK 「社会福祉法人つどいの家」

後援会だより ~第102号~



つどいの家・コペル
【コペルでミニバザーる】

つどいの家・アプリ
【アプリワールド】



秋のイベントで
地域の方と
交流しました♪



仙台つどいの家
【つどいマルシェ】





連載

きいて きいて

第4回



～社会とのかかわりの中で～

「救いの手」

私に原稿依頼の電話がとびこんできました。

『とっとなんでもない!』私は近年心身の不調が続いていて、コロナ禍でますます人との接触が減ってしまい、孤立しているように感じ、ぐるぐるぐると不安と焦りの渦の中で「私は今まで何をやってきたんだろう・・・」と自責してみたり、「誰か助けて～」と心の中で叫んでみたり、原稿を書く余裕など毛頭ありませんでした。でも「お断りするの簡単だけど、お引き受けしてみたら?」という内なる声が聞こえてきたのです。

テーマがまず“良き理解者との出会い、救われたこと”とありました。そうです! ありました! 書くことがわかりました。息子が施設内で性に関するトラブルを起こしたとき、支援者の方が息子の人格を否定せずにとても丁寧に関わってくださり、「これは、皆の問題だから」と『性と生の勉強会』を開催してくださったのです。その中で、“恋愛は生きる力”だとか“内なる優勢思想”等、私自身がはっとされられる多くの言葉に出会いました。“障害を持っているからダメダメ”と全否定するのではなく、“マナーは大切できちんと伝えていかなければならないけど、本人の気持ちを理解して大事にしていこう”とか“人を好きになる、ということにフタをしてはいけないんだ”ということなどをおそわりました。会の代表の先生には、その後は何度も相談にのっていただき本当にありがたく、謝しております。

そして2つめ、先日グループホームの件で、とてもショックなことがありました。支援制度ができてきて、社会の中で支えていただきながら生活できるようになっていければと願うところでしたが、息子の障害の根幹ともいえる“協調することが難しい”という“扱いにくさ”で判別されたようで、試行錯誤の機会すら与えられないまま、却下されたのです。これまでも弾かれる経験はずいぶんしてきましたが、今回はこちらの甘さもありましたが、アンケート調査やモニタリング等、長い時間をかけての取り組みだっただけに、特に不信感や疎外感を抱いてしまい、とても苦しくなりました。致し方ないにせよ、せめて具体的な課題を知りたく申し願いましたが、今だ回答はいただいておりません。そんな折、別件でぴぼっと南光台にお電話すると、長年お世話になっていたスタッフのかたとつながり、もやもやした胸の内を吐露してしまいました。何かが解決したわけではないのに、心がとても軽くなり、こんなにも“あたたかい支援”があるんだと救われた思いがいたしました。

こだわりが強すぎたり、反発のエネルギーが強いと家族といえど(家族だからこそ)精神的にも追い込まれてしまいます。息子の将来を安心しておまかせできるところってあるのだろうか・・・以前より心に留めていたある方のことを思い出し、先日お訪ねしました。“誰も排除しない、否定しない、受け入れる”というスタンスで長年フリースクールをやってこられ、今なお体を張って夢をもち続けて活動されていました。その道中は、並大抵の苦心ではなかったともうかがいました。『こんな方がいらっしやっただ!』私にとっては救いの大きな手を持つ、ありがたく、大きな存在のように感じました。

あらあら? 私なんだか元気になってきましたよ!!

寄稿する、ということでのいろいろなことと向き合い、前を向けるようになってきたーこれこそ救いの手をさしのべていただいた、ということなのですね。私も、どなたかの元気がなくなりかけているのを感じたら、何かができなくても、心のそばにいられる人になりたい・・・と秘かにですが思いました。深く感謝申し上げます。

(記: ぴぼっと南光台・ぺんたす利用者家族 志村博子)



ドキュメンタリー映画 「みんなの学校」 上映会報告



2023年11月17日(金)、ドキュメンタリー映画「みんなの学校」の上映会を社会福祉法人つどいの家・つどいの家後援会共催で、宮城野区文化センターパトナシアターにて開催しました。当日は、3部に分け上映を行い、福祉関係者の方々のみならず現職の小学校校長の方や教職員を目指している学生さんなどを合わせて171名の方々に来場して頂きました。



この映画の題材となった大空小学校は、大阪市住吉地区の公立小学校として2006年に設立されました。学校の理念として「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」と掲げ、唯一のルールとして“自分がされていやなことは人にしない、言わない”という「たったひとつの約束」があり、すべての子どもたちが同じ教室で学ぶ取り組みを行ってきました。

さて、よく耳にする機会が増えた「多様性」や「共生社会」といった言葉、「インクルーシブ教育」とは。英語の「インクルーシブ」は「あらゆる人々を受け入れた」という意味をもつ形容詞で、「共生社会を実現するために、多様な背景をもつ子ども・大人が共に学ぶ環境」とされています。日本で2010年に文部科学省から正式にインクルーシブ教育システムとして理念の方向性が示され、本格的なシステム構築が始まる以前から、当たり前のようにインクルーシブ教育を実践してきたように感じられました。



この映画では一人ひとりの個性を尊重しつつ、時には優しさだけではなく何が本人にとって必要かを考え、子どもたちだけではなく、その過程では教師を糾弾する校長の熱意に始まり、地域が包み込む様子もありました。みんなが「平等」として、ではなく「公平」に子どもも大人も一人ひとりの違いを認め合い、ともに成長していく姿が描かれていました。

ご来場くださいました皆さま、開催にあたりご協力頂きました皆さまに深く感謝申し上げます。

(つどいの家・アプリ 鈴木恵雅)

○ 頂いたアンケート・感想の一部より

- ・互いを認め合い、ともに成長していく子どもたちの姿。子どもたちに寄り添う先生の姿をみて沢山の感動や学びがありました。みんなの学校が世の中全体に広がり、幸せな社会になっていく事を願います。
- ・いかに小さい時からあらゆる人々と触れ合い、それぞれの個性や価値観を知り、素直な気持ちでぶつかっていく体験や経験を積み重ねていけるか。そういったものが何より、これから多様性に富んだ社会には必要と思うことも多く、正しく具現化された映画だなと感じつつ鑑賞させていただきました。

募金箱設置店紹介

今回ご紹介するお店は、青葉区木町通の住宅街に佇む英国風のティールームがコンセプトになっている「POLLY PUT THE KETTLE ON (ポリープット ザ ケトルオン)」。

かわいらしいライトブルーの外観のお店の中は、とても落ち着いた雰囲気思わず写真を撮りたくなってしまふほどインテリアも素敵です！インテリアは季節毎に変わるといふことで、ぜひ行かれた際はインテリアにも注目してもらいたと思います♪

2段のティースタンドで提供されるアフタヌーンティーは、おすすめのスイーツ・本場イギリスのスコーン・サンドウィッチで構成されておりとてもおすすめです(^_^)

スコーンは全国発送も行なっているとのことなので、お店のホームページもぜひご覧になっていただければと思います。

(ぴぼっと支倉 佐藤愛里)



POLLY PUT THE KETTLE ON
住所：仙台市青葉区木町通
1-4-37 MHビル1階
定休日：木曜・第4金曜日

* つどいの家 後援会 会員募集 *

～ 後援会の目的 ～

社会福祉法人つどいの家の基本理念に対する社会の関心や理解を広げ、法人の運営する事業所及び事業を支援すること

つどいの家では施設整備をはじめとするサービスの充実を図るため、より一層の資金を必要としています。つどいの家を支える後援会の活動にご賛同ご協力をお願いいたします。

■入会の申し込み: 「つどいの家・アプリ」までお電話でお申し込みください (022-743-1882)

■年会費

- ・運営会員 3,000円 *議決権あり
- ・賛助会員(個人) 3,000円以上 *議決権なし
- ・賛助会員(団体) 10,000円以上 *議決権なし
- ・協力会員(募金箱設置やポスティング等の協力)



編集者: 「社会福祉法人つどいの家」後援会 会長 針持 哲郎
〒984-0838 仙台市若林区上飯田1丁目17-58(つどいの家・コペル)
TEL 022-781-1571 FAX 022-781-1573

発行者: 東北障害者団体定期刊行物協会

〒980-0874 仙台市青葉区角五郎1丁目-12-6 頒価/100円(後援会の会費を充てています)